

編集後記

今年も早や師走に入った。時の流れの早さにただ驚くばかりである。

さて、今月の特集は「在宅リハビリテーション」である。老人保健法の発足とともに、老人保健事業に関連して、在宅リハビリテーションが大きくクローズアップされようとしている折から時宜を得た特集であると思われる。しかし、大変残念なことに、巻頭を飾る予定であった神奈川県医師会理事西田一彦氏の「地域医療の中に占める在宅リハビリテーションの意義と問題点」は、氏の急逝によって永遠に日の目を見ることが出来なくなってしまった。西田先生は7月18日も膜下出血で倒れられ、同月21日に永眠されたのである。その誠実な御人柄と、精力的な活躍を知っている1人として、全く痛惜の念に耐えない。御冥福を心から御祈り申し上げる次第である。

特集では、尾賀幹氏はわが国で初めてのデイ・ホスピタルを運営している東京都養育院における経験と問題点、さらには併設されているハーフウェイハウスの問題点について触れられ、二木立氏は代々木病院における脳卒中退院患者のフォローアップシステムと調査結果について述べられた。佐藤育徳氏は巡回相談に関して、その年次の推移、全国各地の

取扱状況の比較、神奈川県における実態等について詳述され、最後に訪問リハビリテーションに関して、矢谷令子氏は茨城県守谷町における農村での経験を、福屋靖子氏・他は東京都中野区における都会地での経験をそれぞれ紹介された。以上の5論文は在宅リハビリテーションの各側面を示すものであり、在宅リハビリテーションを考える上で大変参考になるものと思われる。

巻頭言で柴田氏は、現在携わっておられる義肢装具適合士の養成について、その信念を述べられたが、第1回生が卒業する今から1年先には、彼等の身分法が確立されていることを心から祈る次第である。

講座C Tが今月をもって完結した。1号から12号まで、基礎から臨床に亘る、内容の充実した講座であった。御担当いただいた諸先生に心から御礼を申し上げたい。あと1つの講座の脳波は第3回に入り、今回はC Pについてである。この脳波もまた大きな期待をかけられているシリーズであった。

今月の症例報告は本田氏・他の「48年目の処女歩行」という極めて興味ある症例であった。「研究と報告」、「症例報告」欄に奮って御投稿下さるよう新しい年に期待している。

(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加倉井 周一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長谷川 恒雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田、山田)

次号予告(第12巻 第1号)

特 集 社会復帰の実態

社会復帰と関連施設：リハ医からみた

社会復帰の現状……………横市大 大 川 嗣 雄

脳性麻痺の社会復帰……………拓桃園 高 橋 孝 文

脊損の社会復帰：四肢麻痺・対麻痺…総合せき損センター 赤 津 隆

成人片麻痺の社会復帰……………七沢病院 横 山 巖

慢性関節リウマチ治療のシステムについて：

学問的にみた独立性について……………東京女子医大・内科 西 岡 久寿樹

巻 頭 言 リハビリテーションの一層の国際化を——

R.I. ナショナル・セクレタリー就任にあたって ……東大 上 田 敏

研究と報告 片麻痺患者に伴う腰痛・坐骨神経痛……………札幌丘珠病院 岡本五十雄・他

片麻痺肩の関節造影上の変化について……………川崎中央病院 白 野 明・他

紹 介 リウマチ患者のねじり力の計測……………広島市民病院 椎 野 泰 明

講 座 運動療法とその背景 1：運動療法の概念……………産業医大 緒 方 甫

リハ医のための人類遺伝学：遺伝性骨・

軟部系統疾患：(1) 総論 ……神奈川リハセンター 土 屋 弘 吉

一 頁 講 座 人工関節 1：概説・歴史……………京大・整形外科 山 室 隆 夫

意 見 と 声 障害者の性と自立……………富津市 石 坂 直 行

(編集頁の都合等により掲載が若干変更になることがあります。編集室)